

## 私の宝物（青少年育成推進員の活動及び所感）

## 原体験という宝物

新庄市青少年育成推進員 山科 慎治

40歳で新庄青年会議所を卒業後、先輩からお誘いいただき、また青少年の健やかな成長を想う活動に参加させていただく機会を頂戴しましたことを嬉しく思います。

私が参加した主な事業は、「高萩ジャンボリー」という新庄市と友好都市であります茨城県高萩市へ7月に出向き、8月の新庄まつりの際に高萩の児童が「萩っ子歴史探検隊」として新庄にやって来る、新庄藩初代藩主戸澤政盛公が繋いだ歴史とご縁を大切にしている児童交流事業です。

この事業の素晴らしい点は、新庄市も高萩市も小学生の頃に参加した子どもたちが高校生、大学生となり、ボランティアとして小学生の引率や事業の企画に参画している子が非常に多いということです。

私は、「教育とは、家庭教育、学校教育、地域社会教育の3つの教育が有機的に連携して効果を発揮するものであり、共育とも言われるように地域の人々が一緒になって行っていくべきもの」と考えています。とりわけ、地域の子どもたちを我が子のように考え、愛情を注ぎ育てる地域社会教育の重要性は益々高まっていくものと思われまふ。青少年期の一つの夏の出来事が、ボランティアという形で地域社会への参画の原体験として子どもたちの心に刻まれ、彼らの人生の宝物となっているのであれば、それは私自身の大きな宝物でもあり、これからもお互いに宝物を増やせるように刺激し合いながら活動して参りたいと思います。

## 地域の宝

金山町青少年育成推進員 笹原 幸治

地域の宝である未来ある子どもたちが、心身ともに健やかで、人間性や社会性豊かに成長することは、地域の願いであり、私たちの務めでもあります。

しかしながら、近年全国的に、スマートフォンなどIT機器の急速な普及、SNSなどによる有害情報の氾濫などが問題になっており、このような中で青少年が犯罪に巻き込まれる事件も発生しています。

このように青少年を取り巻く環境が目まぐるしく変化している中、青少年育成推進員の重要性はさらに増していると感じております。

私たち町青少年育成推進員としましても、この課題と親身に向き合い、安全で明るい町づくりのため、あいさつ・声掛け街頭指導やパトロール活動など地域での見守りを継続して実施し、今後も地域と連携しながら、青少年の健全育成に努めて参りたいと思います。

町内の小中学校では、まもなく年末年始休業に入ります。町の宝である子どもたちが事故や事件に巻き込まれることがないように、「地域の子どもは地域で育てる」ということを再認識するとともに、青少年育成推進員を中心に各関係機関と連携し、地域での見守りや声かけなどより一層の取組に手助けし、邁進して参ります。



## 子どもから学ぶ気づき

最上町青少年育成推進員 菊川 昌典

技術の進歩と共に整備される環境では、その新しい物事の情報量の多さに、メディア情報の善悪をインターネット利用の正しい知識を身に付けて見極めなければいけないと感じています。生活スタイルにも影響があり、理解していても対応が大変な場面もあります。大人は、自分の長年の人生経験値、年の功があり、今に比べて大人の対応ができます。しかし、若者は、これから経験を積んで物事や学習を取り入れながらさまざまなことに挑戦し、研鑽していきます。それぞれ価値観で判断するお互いに共通するところと課題があるような気がします。

以前、私は、教育の現場で勤めていました。そのときは、ユニバーサルデザイン教育の研究をしていました。ユニバーサルデザイン教育とは、より多くの人を考慮し、誰でも使いやすい環境を整える学習です。子どもたちへの支援活動中は、純粋で素直な発想に何気ないことの振り返りができ、多くの気づきがありました。大人をしっかり観ていて真似をして育つため、身近な大人として見本となる環境の中で、言葉かけや接し方の支援には、身が引き締まる想いでした。子どもに寄り添った支援教育を研究するたびに、自分の配慮の足りなさに気づくことが多くありました。日常的に工夫して相手ができるように伝えているか、合理的配慮の知識不足のような気がしました。子どもたちから離れていっているのは、大人側からかもしれないと感じ、社会教育活動を通し共通課題に向き合っていきたいと思ひます。

## 楽しみながら

舟形町青少年育成推進員 信夫 貴吉

警察のメールサービスに登録していると、「下校途中の生徒が不審者に声をかけられる事案が発生」というメールが届くことがある。子供たちが見守られていると思うと同時に、たとえ子供たちを心配している大人だとしても、気軽に声をかけられる時代ではなくなったのではないかと不安も感じる。そんなこともあってか、直接的なコミュニケーションがとりにくい時代に、子供たちの将来を心配する大人たちも多い。

でもそんなことはないですよ。今の子供たちも素晴らしい。私には子供が二人おり、その同級生や娘のバレー部の仲間、息子のサッカー部の仲間などを見ていると今の時代、素直な子だらけだと感心してしまう。特に舟形のいろいろな行事を助けてくれる高校生ボランティアは凄い。舟形駅掃除では、一生懸命掃除する子供たちの姿を見ながら、ふと自分の高校生時代に思いを馳せ、自分より遥かに立派な現代の子供たちを見てうれしくなってしまう。見ていて特にうれしいのは、楽しそうに、まるで遊んでいるように手伝っている姿に出会った時である。

「観音様にとって人助けは遊びなのだ」という話が、私は好きだ。遊びだからこそ、飽きもせず楽しんで人助けを続けられる。子供たちは、地でそれを行っている。逆に大人の方が、もっといろんなことを楽しむべきだと教えられた気がした。私も子供たちに負けないように笑顔で、楽しみながら進んでいきたい。